

文学研究科教育課程編成の方針

■博士課程前期課程

修士（文学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」「演習」および「研究指導」を組み合わせて教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は30単位である（内訳は、履修規程に定める）。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。修士論文は所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、論文最終面接を受け、審査に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、各専攻の研究領域における知的蓄積を理解するため、「日本文学研究」「日本語学研究」「中国文学研究」「英文学特殊研究」「米文学特殊研究」「英語学特殊研究」「ドイツ文学特殊研究」「ドイツ語学特殊研究」「ドイツ語教育特殊研究」「ドイツ学特殊研究」「ドイツ文化史特殊研究」「フランス文学特殊研究」「フランス語学特殊研究」「日本史特殊研究」「東洋史特殊研究」「西洋史特殊研究」「地域社会研究方法論」「地理学特殊研究」「文化人類学特殊研究」「地理学調査演習」「地域社会調査演習」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、人文学の領域における知的蓄積を分析総合する能力および、学的世界の中で自らの位置を知る能力を身につける。
2. 「演習」では、各専攻の研究領域の中で、調査を行う技能や論理構築能力および表現技法を獲得するため、「日本文学演習」「日本語学演習」「英米文学研究方法論」「ドイツ文学特殊研究」「ドイツ語学特殊研究」「ドイツ語教育特殊研究」「ドイツ学特殊研究」「ドイツ文化史特殊研究」「フランス文学演習」「フランス語学演習」「日本史演習」「東洋史演習」「西洋史演習」「地理学演習」「文化人類学演習」「超域文化学演習」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することによって、的確で客観的な調査を行う技能、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につけるとともに、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を身につける。
3. 各専攻で開講する授業科目の領域を越えた人文知を獲得するため、一定の条件のもとに文学研究科所属専攻以外の専攻、他研究科、平和・コミュニティ研究機構の科目を履修することができる。これらの科目を受講することにより、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を深める。詳細は履修規程に定める。
4. 「研究指導」では、担当の指導教員による修士論文作成のための個別指導により、人文学の領域における知的蓄積を分析総合する能力、的確で客観的な調査を行う技能に基づいて、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につける。

修士（教育学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」「演習」および「研究指導」を組み合わせて教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は30単位である（内訳は、履修規程に定める）。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。修士論文は所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、論文最終面接を受け、審査に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、本専攻の研究領域における知的蓄積を理解するため、「教育哲学研究」「日本教育史研究」「外国教育史研究」「教育社会学研究」「教育心理学研究」「教育方法学研究」「社会教育研究」「比較教育学研究」「教育思想史研究」「教育学特殊研究」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、教育学の領域における知的蓄積を分析総合する能力および、学的世界の中で自らの位置を知る能力を身につける。
2. 「演習」では、本専攻の研究領域の中で、調査を行う技能や論理構築能力および表現技法を獲得するため、「教育学演習」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することによって、的確で客観的な調査を行う技能、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につけるとともに、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を身につける。
3. 本専攻で開講する授業科目の領域を越えた「知」を獲得するため、一定の条件のもとに文学研究科所属専攻以外の専攻、他研究科、平和・コミュニティ研究機構の科目を履修することができる。これらの科目を受講することにより、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を深める。詳細は履修規程に定める。
4. 「研究指導」では、担当の指導教員による修士論文作成のための個別指導により、教育学の領域における知的蓄積を分析総合する能力、的確で客観的な調査を行う技能に基づいて、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につける。

修士（比較文明学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」「演習」および「研究指導」を組み合わせて教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は30単位である（内訳は、履修規程に定める）。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。修士論文は所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、論文最終面接を受け、審査に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、本専攻の研究領域における知的蓄積を理解するため、「現代文明学特殊研究」「文明工学特殊研究」「言語多文化学特殊研究」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、比較文明学の領域における知的蓄積を分析総合する能力および、学的世界の中で自らの位置を知る能力を身につける。

2. 「演習」では、本専攻の研究領域の中で、調査を行う技能や論理構築能力および表現技法を獲得するため、「現代文明学演習」「文明工学演習」「言語多文化学演習」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することによって、的確で客観的な調査を行う技能、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につけるとともに、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を身につける。
3. 本専攻で開講する授業科目の領域を越えた人文知を獲得するため、一定の条件のもとに文学研究科所属専攻以外の専攻、他研究科、平和・コミュニティ研究機構の科目を履修することができる。これらの科目を受講することにより、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力を深める。詳細は履修規程に定める。
4. 「研究指導」では、担当の指導教員による修士論文作成のための個別指導により、比較文学の領域における知的蓄積を分析総合する能力、的確で客観的な調査を行う技能に基づいて、自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法を身につける。

■博士課程後期課程

博士（文学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」および「研究指導」を組み合わせ教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は6単位である。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。博士の学位申請論文は、所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、審査ならびに最終試験に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、各専攻の研究領域における高度な知的蓄積についての理解を深めるため、「日本文学特殊研究」「日本語学特殊研究」「中国文学特殊研究」「英文学特論 ⅠA」「米文学特論 ⅠA」「英語学特論 ⅠA」「ドイツ文学特殊研究」「ドイツ語教育特殊研究」「ドイツ文化史特殊研究」「フランス文学特殊研究」「フランス語学特殊研究」「史学研究方法論」「日本史特論」「東洋史特論」「西洋史特論」「史学史研究」「地域社会調査特殊研究」「地域社会調査実習」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、人文学の領域での高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力を身につける。
2. 「研究指導」では、担当の指導教員による博士論文作成のための個別指導により、人文学の領域での知的蓄積に対する広く深い理解を前提にして、自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力および、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力を身につける。なお、原則として各学期の終わりに研究報告書を提出し、博士学位申請論文を提出する場合には、それに先だって博士論文中間報告

書を提出し、博士学位申請論文執筆のための指導を受ける。

博士（教育学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」および「研究指導」を組み合わせ、教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は6単位である。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。博士の学位申請論文は、所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、審査ならびに最終試験に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、本専攻の研究領域における高度な知的蓄積についての理解を深めるため、「教育哲学基礎研究」「日本教育史基礎研究」「外国教育史基礎研究」「教育社会学基礎研究」「教育心理学基礎研究」「教育方法学基礎研究」「社会教育学基礎研究」「比較教育学基礎研究」「教育思想史基礎研究」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、教育学の領域での高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力を身につける。
2. 「研究指導」では、担当の指導教員による博士論文作成のための個別指導により、教育学の領域での知的蓄積に対する広く深い理解を前提にして、自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力および、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力を身につける。なお、原則として各学期の終わりに研究報告書を提出し、博士学位申請論文を提出する場合には、それに先だって博士論文中間報告書を提出し、博士学位申請論文執筆のための指導を受ける。

博士（比較文明学）

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり「研究」および「研究指導」を組み合わせ、教育課程を編成している。本課程の修了要件単位数は6単位である。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、試験・レポートあるいは平常点によって評価する。博士の学位申請論文は、所定の論文審査基準に基づいて審査を行い、審査ならびに最終試験に合格することが修了の要件となる。

1. 「研究」では、本専攻の研究領域における高度な知的蓄積についての理解を深めるため、「比較文明学特殊研究」等の授業科目を開講する。これらの科目を受講することにより、比較文明学の領域での高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力を身につける。
2. 「研究指導」では、担当の指導教員による博士論文作成のための個別指導により、比較文明学の領域での知的蓄積に対する広く深い理解を前提にして、自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力および、関連する学問領域に対し

て、広く深く理解しかつ発信できる能力を身につける。なお、原則として各学期の終わりに研究報告書を提出し、博士学位申請論文を提出する場合には、それに先だって博士論文中間報告書を提出し、博士学位申請論文執筆のための指導を受ける。